

KIU

年報補足資料

京都大学蹴球部

KIU

年報補足資料

京都大学蹴球部

昭和52年度現役戦成績一覧表

監督 恒藤 武 C 宮本 彰
 VC 北原有機夫M 吉村玄浩
 " 杉田修一 副 寺井哲治

関西学生リーグ (一部)

	勝	敗	分	勝点					
1) 大商大	6	1	0	12	京大	$0 \begin{pmatrix} 0 & -4 \\ 0 & -4 \end{pmatrix}$	8	商大	9 10 万博
2) 大体大	5	1	1	11	京大	$0 \begin{pmatrix} 0 & -3 \\ 0 & -2 \end{pmatrix}$	5	体大	9 17 西京極
3) 大経大	4	3	0	8	京大	$1 \begin{pmatrix} 0 & -2 \\ 1 & -0 \end{pmatrix}$	2	同大	9 23 尼崎
4) 同大	3	2	2	8	京大	$1 \begin{pmatrix} 0 & -1 \\ 1 & -0 \end{pmatrix}$	1	関学	10 1 伊丹
5) 関学大	2	2	3	7	京大	$1 \begin{pmatrix} 0 & -0 \\ 1 & -1 \end{pmatrix}$	1	産大	10 8 万博
6) 京産大	2	3	2	6	京大	$0 \begin{pmatrix} 0 & -2 \\ 0 & -0 \end{pmatrix}$	2	経大	10 16 韮
7) 京都大	0	5	2	2	京大	$0 \begin{pmatrix} 0 & -0 \\ 0 & -1 \end{pmatrix}$	1	天理	10 22 万博
8) 天理大	1	6	0	2					

(天理大は2部へ、阪大が1 (入替戦)

部昇格、京都大、京産大と 京大 $2 \begin{pmatrix} 1 & -1 \\ 1 & -1 \end{pmatrix}$ 2 京教大 11 23 韮
 もに入替戦の結果1部残留)

京大 $2 \begin{pmatrix} 0 & -0 \\ 1 & -1 \\ 0 & -0 \\ 0 & -0 \\ 1 & -0 \\ 0 & -0 \end{pmatrix}$ 1 京教大 12 4 万博

京都学生リーグ

京大	0-0	京教大	3.19	大谷大
京大	5-0	立命大	4.3	宇治
京大	7-0	工織大	4.9	京教大
京大	4-0	竜谷大	4.10	宇治
○京大	1-3	同大	4.29	関学大
○京大	2-3	京産大	5.3	宇治
○京大	3-1	天理大	5.8	大経大

○印は関西学生選手選を兼ねる。

関西学生選手権予選リーグ

京大	0-7	大商大	4.17	大商大
京大	0-2	大経大	4.24	大谷大
京大	1-1	関学大	5.1	香里
京大	0-4	大体大	5.5	大谷大

関西学生選手権決勝トーナメント

京大	4-0	近大	5.14	大商大
京大	0-4	大体大	5.22	大商大

第31回同大定期戦 (農学部G)

京大	1 ($\frac{1-0}{0-3}$)	3	同大	6.12
超OB	-	超OB		
OB	-	OB		
2軍	0-2	2軍		

第28回東大定期戦 (御殿下G)

京大	0 ($\frac{0-1}{0-0}$)	1	東大	6.26
超OB	-	超OB		
OB	-	OB		
2軍	-	2軍	6.27	

近畿国体 (神戸大G)

京大	1-0	奈良教育大	8.27
京大	1-1	大教大	8.28
京大	0-1	神戸大	8.29
京大	0-1	京教大	8.30

(以上の結果 4位)

天皇杯関西大会

京大	2-1	科研薬	11.3	万博
京大	1-0	大阪ガス	11.6	彦根
京大	1-4	ヤンマーク	11.23	靱

練習試合 (東京遠征も含)

京大	2-0	京産大	5.28
京大	1-1	大阪大	5.29
京大	0-0	紫光ク	6.4
京大	0-2	紫光ク	6.8
京大	2-1	田辺ク	8.6
京大	0-3	愛知教員	8.7
京大	3-1	一橋大	8.16
京大	2-6	紫光ク	8.17
京大	0-1	国士館大	8.19
京大	0-5	慶応大	8.20
京大	0-0	東京大	8.21
京大	1-3	古河電工	8.22

OB戦

現役	3-1	O.B	3.27
現役	3-1	O.B	8.7

(メンバー)

同大定期戦

GK	FB	HB	FW
佐	北中崎塩	藤宮高	谷藤石
藤	原村山見	原本岡	野井原

東大定期戦

GK	FB	HB	FW
佐	北塩崎中	藤宮高	谷藤石
藤	原見山村	原本岡	野井原
交代	佐藤→大石		

対 大商大

GK	FB	HB	FW
大	北塩平中	高藤田	谷杉宮
石	原見尾村	岡原尻	野田本
交代	谷野→吉貴	杉田→藤井	

対 大体大

GK	FB	HB	FW
大	北塩平中	高藤田	谷杉宮
石	原見尾村	岡原尻	野田本
交代	高岡→吉貴	谷野→石原	

対 同大

GK	FB	HB	FW
大	北塩平中	高田藤	宮杉石
石	原見尾村	岡尻原	本田原
交代	高岡→藤井	田尻→吉貴	

対 関学大

GK	FB	HB	FW
大	北塩平中	高藤宮	谷杉石
石	原見尾村	岡原本	野田原
交代	塩見→吉貴	高岡→田尻	

対 京産大

GK	FB	HB	FW
大	北塩平中	田藤宮	谷杉石
石	原見尾村	尻原本	野田原

対 大経大

GK	FB	HB	FW
大	北塩平吉	田藤宮	石杉谷
石	原見尾貴	尻原本	原田野

対 天理大

GK	FB	HB	FW
大	北塩平中	高藤宮	石杉谷
石	原見尾村	岡原本	原田野
交代	平尾→吉貴		

対 京教大 (入替戦第一戦)

GK	FB	HB	FW
大	北塩平中	田藤宮	石杉藤
石	原見尾村	尻原本	原田井
交代	大石→佐藤	北原→崎山	

対 京教大 (第二戦)

GK F B H B FW
大 中塩平吉 田藤官 杉谷東
石 村見尾貴 尻原本 田野
交代 吉貴→塩路 田尻→高岡

5 2 年度主将報告

宮本 彰

去年は、2部で優勝。自動入替制度により
念願の1部入りが実現した。そして、今年の
成績は、2分け5敗で7位、入替戦第1戦は
引き分け、第2戦の再延長で、2-1と辛勝。
1部リーグのきびしさを、部員全員が痛感し
たことと思う。関西1部のレベルが落ちたとい
うものの、やはり、商大、体大、同大の
上位3校とは、かなりの実力差があるとの予
想であった。去年と比べて、各ポジションの
軸がごっそり抜け、その穴を一部の経験のあ
る我々4回生が埋めるべく、チーム編成を行
ったのだが、秋のリーグ戦において、1部に
勝てるチームとはならず終ってしまったよ
うだ。新チーム結成後、12月から春季リー
グへと、例年通り基礎体力の向上及び、基礎
技術を中心に、練習内容を組み、それと平行
して紫光クラブを相手に、週2回、試合を行
い、実戦的感觉を養うよう努めてきた。春の
京都リーグ、関西選手権予選リーグと、まず
まず順調にきたと思うのだが、やはり商大、
体大といった強豪には、大量得点を許し、

Diffence の甘さが指摘されていた。攻
撃においては、予想よりも、得点が可能であ
ったが、甘さが残っていたように思う。その
後、予選リーグ終了の頃、FWの中心、杉田
が肺の故障で長期安静が必要となり、攻撃力
の弱体化が心配されるようになった。それま
でにも、ハーフ、フォワードの攻撃の組み立
て方が、問題となっていた時期だけに、去年
H Bの軸であった藤原氏に現役復帰を頼み、
とにかく、1部に通用する攻撃を目標に、チ
ーム編成を考えた。同大戦、東大戦と2つの
定期戦の頃より、チームが空回りの状態とな
るが、シーズンオフに入ってしまう。その間
監督の恒藤氏に、前期におけるチームの問題
点や後期の運営について、適切な指示を頂く
も、好結果には至らなかった。主将として、
私の責任が大きいのだが、チーム全体の集中
力の薄れを、如何に解決するかが問題であっ
たように思う。特に、後期開始後の夏合宿は
例年と異なるロングラン合宿により、レギュ
ラークラスの体力及び技術の向上を目標にす
るにもかかわらず、ケガ、病気による練習不
参加者が続出し、近來希な、情けない合宿と
なってしまった。以後、東京遠征が雨にたた
られ、満足な成果を上げられず、チームの実
力を、見極められぬまま、秋のリーグの開幕
となる。緒戦、第2戦と、春に大敗した商大、
体大に8-0、5-0、とまたもや完敗。続
く同大戦より、序々に調子を上げ、関学、産
大と引き分ける。試合内容も、互角に渡り合
えるようになるが、試合に勝つというもう1

つの壁を破ることができずに、後の経大、天
理大ともに敗れて、結局、2分け5敗、7位
という成績で終了し、入替戦に臨むことにな
った。

<今年のハイライト、入替戦第2戦>

相手は、2部リーグ2位の京教大である。
第1戦は、押れ気味の試合内容ながらも、F
W杉田の個人技で2点を取り、辛くも引き分
け。第2戦は、BKの要北原を欠き、(第1
戦で骨切のため)中村をスィーパーとし、他
秋のリーグ戦に出場しなかった新人をFWに
起用という、思いきった(というよりも、人
材不足のための苦肉の策) チーム編成で、
臨むこととなった。第1戦では、気合不足が
指適され、また、京大としても、勝たねば、
1部残留できない事もあり、前半より、互角
以上に、試合を進めた。後半、開始3分、左
サイドからの谷野のセンタリングを杉田がシ
ュート、ポストに当って、はね返るところを
もう一度杉田がブッシュして、待望の先取点
をあげた。しかし、後半29分、京大ゴール
前のルーズボールを、相手CFが頭でブッシ
ュ、GK大石の頭を越えて同点となる。京教
大得意の、オープンへのスルーパスからの
攻撃を、スィーパー中村の好判断で、大きく
はね返し、一進一退の攻防のまま、延長戦と
なる。京大は、H B藤原氏が組み立ての中心
となり、左右のオープンからの攻撃が、パタ
ーンであったが、延長戦に入ると、相手の攻
撃が多くなり、京大ゴール前をセンタリング
が2発3発と通過するが、得点には至らない。

延長後半ともなると、双方疲れが目立ち、
特に、京教大の選手に足をつって、グラウンド
の外に出てしまうということが、度重なった。
20分の延長の末、結着がつかず、再延長と
なる。日没が近く、休みなしてすぐに開始。
京大、京教大のベンチまた応援の人々からも
溜息がもれる。再延長前半開始1分藤原氏か
らのパスを右ウィング、東が受け、それを塩
見へ。足をつっていた塩見の根性の攻撃参加
で、絶好のセンタリング。走り込んでいた私
の目の前に来るボールを、夢我夢中でキック
ゴールとなり、待望の勝ち越し点となった。
その後、19分間、双方とも死力を尽くして
の攻防となるが、遂にノーゴール。内容はと
もかく、両校ともに、1部にかける執念のぶ
つかり合いで、壮絶な試合であった。

以上が、今年1年間の内容である。客観的
にみて、京大の現在の実力から、妥当な成績
であると、判断できるかもしれない。しかし
最後の試合のように、部員全員が一丸となっ
て、1部にかける意地とも言えるような、技
術、体力を乗り越えた“何か”を常に、持ち
続けることが、一番大切な事ではなからうか。

来年も、今年同様、苦戦を強いられること
だろうが、京大サッカー部の伝統を守り、頑
張ってくれる事を、期待しています。

最後になりましたが、今年1年間、多数の
OBの方々に、たいへんお世話になり、試合
練習とも、御指導頂きました、有難うござい
ました。

今年卒業する4回生の勤め先を報告します。

北原…三井銀行（東京）

池添…臨海土木（東京）

谷野…高周波熱練（東京）

塩見…シェル石油（東京）

吉村…京大医学部に再入学。

杉田、中村、宮本…留年

尚、昨年大学に残って居られました方々は

梅田氏…外務省（外交官 東京）

芝田氏…日立

藤原氏…ドリコ（大阪）

山本氏…工学部大学院

50年史補足資料

50年史の資料集め、不明部分の調査不充分のまゝ発刊に踏切りましたがその後に判ったのをお知らせします。

P 55 昭和7年 東西優勝校対抗戦

〔京〕 金 野 植 田山高 西一松中山

〔大〕 沢 沢 木 辺本木 村藤江野口

G . K F . B H . B F . W

〔慶〕 額 塚 岩 右大岩 駒塚津藤市

〔応〕 額 誠 崎 近崎波 崎部村岡橋

P 56 昭和8年 東西優勝校対抗戦

神宮グラウンド

〔京〕 金 植 持 福山田 高中真伊長

〔大〕 沢 木 地 安本辺 田野田藤岡

G . K F . B H . B F . W

〔早〕 熊 堀 鈴 笹立中 長野川名平

〔大〕 井 江 木 野原村 川沢本取松

P 60 昭和9年 対早大（東西優勝校対抗）

〔京〕 金 持 栗 奥福今 長真麻山高

〔大〕 沢 地 原 田安村 岡田野中田

G . K F . B H . B F . W

〔早〕 佐 鈴 堀 吉立笹 平加川野加

〔大〕 野 木 江 田原野 松茂本沢茂
兄 弟

P 64 送別会の写真、前列右端北村は北本揚次郎が正しい。同氏は京都府庁元消防局長府の調査室勤務中病気の為退職、療養専念中
〒886 宮崎県小林市大字堤字亀尾原3201

P 81 関西学生リーグの成績の第4位は神商大、第五位は関大でした。アベコベになって居ました。訂正して下さい。

P 83 第二回朝日招待サッカーの対東大戦の成績は次の如くでした。

京大 5 { $\frac{1-0}{4-2}$ } 2 東大

P 87 送別会の写真、後列4人目は布津で

す。財津は真違いです。

P 90 京大 3-1 神高商 が抜けています。京大・関大・神高商は同率（ともに1勝3敗）となり、京大は順位決定戦で

京大 7-0 神高商

京大 2-1 関大

上記の成績で勝ち第3位となった。

P 93 昭和18年度 対慶応戦

〔京〕 向 藤 小 竹横山 貫野友皆富

〔大〕 井 野 川 山山中 戸沢貞木成

G . K F . B H . B F . W

〔慶〕 外 大 加 内小永 石宝吉田富

〔応〕 山 塚 山 山林木 川井原中成

P 111。P 112の写真は梶川、向井両氏提供のもので。同志社戦写真後列右から2人目は岡田（医、33年入学）である。

P 181 淡路合宿の写真、二列左から3人目、?印は岡田

P 182 合宿写真の後列左から5人目は伊藤宏美（35年工学部入学、建設省勤務）前列左から3人目は岡田

P 207 43年度二部リーグ成績2位は神大です。第3位は不明

物故者遺族よりの便り

いよいよ梅雨に入りうっとうしい事がございます。此の度は五拾年史を私共にまでお贈り下さいましてまことに有難うございました。何よりの記念の御本、思い出の品として子供達とゆつくり読ませて頂きたいと楽しみにして居ります。御厚情心から感謝申し上げます。末筆ながら皆様の御活躍心からお祈り申し上げます。

横浜市西区東ヶ丘73

一藤典子

拝復 過日、永野様より伺い、心待ちして居りました処早速「年史」を御恵送賜り誠に有難く拝受、写真も入ってみて虫眼鏡でなつかしく拝見、おかげ様で若き当時をしのんで居ります。定長も元気ならどんなに喜びますことかと感無量に存じます。今はもうたった一人の妹沢野道子（西宮市甲陽園）とともにいづれゆつくり拝読を楽しみに致し居ります。

よく名前を覚えて頂いて御厚意の程誠に有難うございました。

鎌倉市浄明寺117

野口菊枝（沢野氏姉）

年の瀬も迫って寒さも一しほきびしくなつて参りました。先日は五拾周年記念の貴重な御本を私方にまでお送り頂きまして誠に有難う存じました。主人存命中でございましたらさぞや喜んで拝見いたした事と残念に存じ、仏前にお供へいたしました。御礼が延引いた

しまして真に失礼いたしましたが暫く他出いたして居りましたため遅くなり申訳なく存じます。御部の今後の御活躍をお祈り申して居ります。

吹田市千里山西4丁目14-5
藤田方 久次米 美代

今年は何時までも残暑がきびしゅうございましたがやっと此頃涼しくなって参りました。其の後すこやかにお過しの事と存じます。

過日は拙宅までわざわざお越し下さいましたのに生憎留守にして誠にすみませんでした。実は三月に娘の看病に上京し入院先で私も発病してしばらく入院して居りましたがお蔭様すっかり元気になり九月初めに御影に帰って来ました。

昨日は五拾年史をお送りいただき遺族に迄御心遣い下さりまして誠に恐縮いたしました。何かと編集に御苦勞様でございました。厚く御礼申し上げます。誠に些少ではございますが同封いたしましたので何かにお役立て下さいませ。先はお礼方々お知らせ迄申上ります。

神戸市東灘区御影中町1-2-15
玉木 照子
註 同封の金額は壹万円 年史の会計に編入

拝啓 この度 五拾年史お送り下され誠に有難うございました。よい記念とさせて頂きます。亡主人もよろこぶ事と感謝します。御厚情をうれしく厚く御礼申し上げます。

昭和53年9月22日

岐阜市西園町10

田中 寿々子

今度はお心にかかけられまして、京都大学蹴球部五拾年史お恵贈戴きまして誠に有難く厚く御礼申し上げます。亡夫、茂雄は昭八卒の竹内様と御一緒でお勤めも同じ東京互期に入社致しました。

中野重美様もお親しくして頂きました。ページをめくって中野様の御写真を拝見致しました処、黒々としたおぐしが随分後退をいたしましたのに驚き今更のようにあの頃がお懐しく存じ上げました。

中野様のお書きになりました中に昭和八年最後の学生生活の思い出に東西対抗に勝って京都大学の歴史を作りたいとの一節、私には特に思い出深い東西対抗戦でございました。

当時主人と私は婚約中の身の上で私は父に連れられまして東京からわざわざ応援にかけつけたのでございました。ところが試合の途中で主人が足に怪我をしてお友達にかつがれて退場しましたので私はもびっくりして泣き出しそうでございました。

あれは忘れも致しません。その年の秋の合宿中の事でございました。大阪に会社を持つて居ました亡父(村井五郎)のお供をして京都に参りました所、合宿中のデート等厳禁されておりましたのに無理にお願いして紅葉の美しい高尾に参りました。その折お目付役をして中野様がついて来て下さいました。お目付役付のデートなど前代未聞の事にて中野様も

嚙かし御迷惑をした事でございましょう。

私共の若き日の夢のような懐しい思い出なのでございます。45頁、46・47頁のお写真ほんとうにお懐しく拝見致しまして子供達にも見せまして、お父さまがこんなに若く元気だった事を話しました。私共は早く結婚致しましたので主人は気の毒にも25才で父親になりその娘の所の孫は今聖心大学の一年生でございます。

ほんとうに思い出の多い御本を戴きまして厚く厚く御礼申し上げ大切にさせて頂きます。暮の事にて何かととりまぎれ御礼が大変遅くなりまして、お許し下さいませ。何かのお集りの折は当時の皆さまに何卒およろしく御鳳声をして下さいませ。 かしこ

12月27日 村井 悦子

下記の図書をご寄贈下さいまして誠にありがとうございました。ご好意厚くお礼申し上げます。

記

京都大学蹴球部五拾年史
昭和52年7月25日

113 東京都文京区本郷7丁目3-1
東京大学附属図書館

拝啓 このたびは、下記の資料を当館にご恵贈くださりまして、ご厚志のほど、あつくお礼申し上げます。

なにとぞ今後ともよろしくおねがい申し上げます。

記

略

昭和52年5月25日

京都市左京区吉田本町(〒606)

京都大学附属図書館

御 礼

監督 恒藤 武(昭25)

4月2日宇治の合宿所食堂で開催されました昭和53年度OB総会の席上、私の監督業10年勤続(?)を表彰して下さいました。私自身、現役時代に先輩の方々から多大のご指導と恩恵を受け、京大蹴球部生活は私の人生経験の中で貴重な無形の財産としていまだに心の支えとなっていることに感謝の念を禁じ得ないものがあります。

今は私とその恩恵を現役に還元してゆく義務があり、そのことを通じて京大蹴球部の伝統を後の世代に残してゆく使命があると考えて努めている次第であります。いわばやらねばならぬことをやっているに過ぎないという気持でありますのに、思いもかけず表彰して戴くことになりましたのは、身に余る光栄と

感謝の他ございません。

頂戴致しました記念品は豪華な置時計で、家に持ち帰りました処、まさに「はきだめに鶴」の如しで、家の者も何処に置いたらよいか途惑う仕末でした。大事に使わさせて戴きます。まことに有難うございました。ご芳志を賜りましたOBの皆様に心から御礼申し上げます。

(50年誌補遺)

伝統を守り育てる心

恒藤 武(昭25)

伝統というのは、美しいものであると同時に重苦しいものである。自由を求める若い世代の人達にとっては窮屈なものだと感じる面があろう。しかし京大蹴球部員たるものは、部には50有余年に亘る歴史と伝統が厳然とあることを心に銘じて戴きたい。私が経験した事例を挙げて後々の参考に供する次第である。

昭和50年6月29日、東大定期戦が東大御殿下グラウンドで行われた日、私は超OB戦に出場の着替えをするため、山上御殿の控室に入った。現役も着替えをはじめている者があり、何人かがグリーンユニホームを着ているのが目についた。私は練習用のユニホームなのだと思って特に聞くこともせずに超OB戦に臨み、懐しい連中と一緒にボールを蹴る楽しみを味わいつつ試合は仲良く1-1の引分けに終わった。気持ちよく引上げてきて、

さて現役戦が始まる段になって驚いた。練習用とばかり思っていたグリーンユニホーム、ストッキングが試合用と分ったからである。そんなものを作るという相談も受けなかったし、話を全く聞いていなかった。しかし試合前にその様な問題を持出すのは志気に影響すると考え、口には出さなかったが、東大がライトブルーの基調を守っているのに、これは失礼なことになると心の中で思った。

試合は前半攻撃の要である田中が東大BK小野田君に完全に押えられて、思うような展開が出来ない。後半はやゝ持直したが結局1-2で負けた。試合後の講評で私は「試合に負けたことより、君達今着ているユニホームで試合した事の方が余程悔しい。京大の伝統のスクールカラーであるダークブルーのユニホームを何故着ないのか、私は監督としての責任上帰阪して進退伺いを申し出るから、君達もそのつもりでいてほしい」と云った。

事情は後で分ったが、ユニホームを新調するに当って、部員の中から今迄のものとは違うものを作ったかどうかとの意見が出て、多数決の結果グリーンユニホームを作ることになったのだそうである。民主的な世の中であり、新しいものを求める若い世代の集団であるから、自然のなり行きであったのであろうし、誰が悪いというものでもない。監督である私の心、意志が現役の諸君に通じていなかった事がその様な結果をもたらしたのであるから、私がOB会に陳謝し、善後処置をお願いするしかないのであった。

帰阪して早速唐原先輩に事情を説明し、進退につき佐藤会長にお諮り戴きたい旨伝えると共に、グリーンユニホームをOB会で買取り、更めてダークブルーのユニホームを新調する資金を現役に交付して下さい様お願いした。結果は、進退については不問とされ、ユニホームは提案通りOB会で買上げ、現在OB用のユニホームとしてOB戦に使用されている。

京大時代、農学部のグラウンド(現在では宇治も使っているが)の部室で練習着に着替え、ボールを蹴ったこと、ダークブルーのユニホームを着てリーグ戦をはじめ対外試合を闘った事が、蹴球部に籍を置いた者の共通の人生経験である。そこに共通の意識があり、愛着があり、一体感を生み出す根源がある。

京大体育会の機関誌の誌名は「濃青」であり、その解説に次の様に記されている。

「濃青とは大正15年以来体育会を象徴して来たカラーで、英国オックスフォード、ケンブリッジのダークブルー、ライトブルーになり、本学が前者を、東京大学が後者を選ったものである」

京大蹴球部は単なるサッカー同好会ではない。大正14年創部以来、代々の部員によって築き、育まれてきた伝統が脈々と生きていくところの、OBと現役とが渾然一体となった一大共同体である。昭和49年5月の創部50周年大会に150名もの多勢の関係者が参集し、盛大な行事を催すことの出来たことが、その何よりの証拠である。そして又、

年々の現役の活動に対して、OB会が物心両面に亘って積極的な支援活動を行っていることもそれを物語っている。

私が本稿を50年誌の記録に止めておきたいと考えたのは、これからの現役諸君が、先輩達が残してきた京大蹴球部の歴史と伝統を良く理解し、伝統に生きる精神の中から各自の個性を思う存分生かしたサッカーをやり、京大には他にない良さがあるというチームが常に形成されることを念願するからであり、又OBになったら今度は先輩として京大蹴球部の伝統を大事に守り育てるために力を注いでくれることを期待する気持ちからである。

当時の永井キャプテンはじめ部員の諸君にはマナイタの鯉にしたことをお宥し願いたい。